

会長就任にあたって



友野 宏 住友金属工業(株) 代表取締役社長

この度、第93回通常総会におきまして第48代日本鉄鋼協会会長に選任されました。大変な名誉であると同時に責任の重さをひしひしと感じております。1915年に設立された本会は、日本の鉄鋼業の発展に多大な貢献をしまいいりました。私自身も、本会の活動を通じて鍛えられ、多くのことを学ばせて頂きました。会員の皆様のお力をお借りして、伝統ある本会の発展の為に精一杯の努力をして参りたいと思います。

近年の世界の鉄鋼産業はかつてないダイナミズムとスピードで成長を続けており、例えばBRICsに代表される国々の経済発展の基盤造りに大きな役割を果たしています。その一方で、原材料価格の高騰や地球環境への配慮などグローバルに取り組む解決すべき新たな課題にも直面しています。

日本鉄鋼協会は、学会部門、生産技術部門を車の両輪とし、そのステアリング部門としての総合企画部門を加えた3部門が協力することにより、鉄鋼業に関わる基礎研究、鉄鋼を製造する技術、そしてそれらを支える機械、電気、制御、システム、環境、エネルギーといった実に多岐にわたる幅広い分野での産学共同の総合力をリードするという極めて重要な役割を担っています。協会設立の基本思想として、①学理と実業、②資本と労力、③同業者、④政府と民業者の4つの結合が挙げられております。この基本思想は、1915年の設立以来、幾多の時代の変遷を経ても全く色褪せることなく、先輩諸氏に受け継がれて参りました。私もこの軸を振らすことなく、しっかりと協会の事業に取り組む所存です。

そのためには、まずは日本の鉄鋼産業がしっかりと収益をあげ持続的に成長すること、そして、それを可能とする基礎研究、プロセス開発、商品開発をしっかりと長期的な視点で継続する事が最も重要だと考えます。

大学では国立大学の法人化以降、大学改革が進行中です。そうした中で大学の先生方の対応も課題が多く大変なものと推察しております。しかし、わが国が今後発展を続けるためには、新しい知識の創出及びそれらの産業化以外に活路はありません。そのためにも産学の連携協力が重要となります。ナノメートルでの組織制御が基礎となり、数百メートル、数キロメートルに及ぶ製品を作り込む鉄鋼生産現場は、12桁にも及ぶレンジを対象とする技術の世界です。関連する設備、計装も含めて、大学にとつての研究開発の大きなフィールドと言えるでしょう。大学の知に求められる役割はますます大きなものとなります。産学連携推進組織の協会が中心的役割を担い、大学における鉄鋼研究をコアとしたより広い領域での連携の輪を上げようではありませんか。

また、大学は人材育成の場として極めて重要な役割を担っております。優秀な人材こそ明日のわが国を支える宝です。鉄鋼協会は人材育成事業という重要な機能も有しております。34年間続いている蔵王での鉄鋼工学セミナーなどに加えて、学生鉄鋼セミナーが産学協力により実施されております。これらについても産学がしっかりと協力して取り組みたいと思います。

昨今の鉄鋼生産の劇的展開と歩調を合わせるように、協会の会員数、講演大会発表数、論文投稿数など協会活動の基本的事項は、以前の低下傾向から増加傾向へと転換しています。これまでの歴代会長のリーダーシップの下、学生鉄鋼セミナー、鉄鋼図書作成支援など活動の強化、本年からの講演予稿集のCD-ROM化、「鉄と鋼」と「ふえらむ」の合本化、電子ジャーナル化など情報発信も強化され、活動が活性化しております。まことに力強い限りです。

協会活動の主役は会員一人一人です。会員各位の鉄鋼技術向上への熱意、努力、協力が基本です。会員一人一人の創意工夫が生かされるような協会運営に努力し、形式張らず、実質的で効率的な運営を事務局と協力して推進します。

本年は近代製鉄150周年の節目の年に当たり、様々なイベントが企画されています。「人が活かす、人を生かす、鉄」がキャッチフレーズですが、人が活かすのも、人を生かすのも鉄鋼技術と言い換えられます。

チャレンジングな課題が山積する今日ほど技術への期待が大きいときはありません。会員各位と協力して鉄鋼協会の発展に精一杯努めて参ります。会員の皆様のご支援、ご協力を重ねてお願い申し上げます。